

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	セカンドハウスほっぷ			
○保護者評価実施期間	令和7年 1月 20日		～	令和7年 2月 21日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	32	(回答者数)	18
○従業者評価実施期間	令和7年 1月 20日		～	令和7年 2月 21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 3月 1日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	ひとり一人特性に合わせた支援 視覚的ツールを活用した支援 (具体物、絵カード、文字絵、チェックリスト) PECE(コミュニケーション伝達ツール)の活用 気持ちや体調に合わせて柔軟な支援提供	異年齢とのレクリエーションや創作活動を通してルールやコミュニケーションスキルの習得に取り組んでいる。その日の体調や情緒面に考慮し、本人の要望にあわせて臨機応変に支援内容を変更。職員との交渉ができたり、本人の意欲が高められたり、成功体験が得られる支援内容をチームで考える。	支援者と信頼関係を構築して、必要な時には「対面活動」を通して本人が理解できる方法で伝える。本人の自主性・主体性が導き出せるよう支援していく。支援内容や活動も職員が支援統一できるように密に話し合いをし、学ぶ姿勢を惜しまない。
2	保護者支援及び関係機関連携	学校や地域との関係機関と連携し、包括的な支援体制を構築している。保護者からの相談に応じ、困り感が軽減されるよう学校と連携を図り対応している。本人が落ち着く環境や、興味・関心がある活動を保護者様と共有し、対応している	関係機関と連携を図りながら、保護者様の不安や悩みに迅速に対応し、安心して過ごせるよう支援提供していく。
3	ライフステージに合わせた、できることを増やす支援	本人の興味・関心を支援につなげられるように、支援内容、自立課題、などを工夫している。また、家事スキルなどの生活に役立つ支援に取り組んでいる。	本人が、興味・関心を持った活動に対して幅が広がるようにバリエーションを考え、本人が自己決定・自己選択ができ、かつ達成感が得られる物を提供できるように支援する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	人材不足	資格を有する職員が不足している。経験や資格を持った職員の確保が難しい。	現場の直接支援者が研修を重ねる。外部講師を招いての研修や、オンラインでの研修にも積極的に参加し、専門性につながる支援に取り組んでいく。
2	障がい特性によりニーズの多様化	利用者のニーズは、一律ではなくそれぞれ異なるため個別対応が必要となるが、困難ケースに重点が行き、比較的落ち着いている利用者支援がマンネリ化になりがち	スケジュールに自立課題を取り入れている中で、本人が興味・関心を持ったり、達成感を得られるような課題を提供していく。また、課題もマンネリ化しないように形状をかえたりして工夫をする。
3	学校休業日(長期休業日)における長時間支援	午前午後の活動内容が課題。	日常的に静と動の活動の組み合わせをしながら、楽しめる活動の構築に努める。自己選択・自己決定しながら長時間での楽しめる活動の構築に努める。